

新除草・調節剤

モゲトン粒剤

A C N 除草剤

(取扱メーカー) 兼商化学工業株式会社
対象作物：水稲

性状・作用特性：本剤はレンコンのウキクサ類の防除に開発され、本誌3巻10号に性状等を紹介した。温度の影響が比較的少ないこと、湛水下で接触的な殺草を現わし、速効の効果をもつことが特徴的で、特殊雑草の防除剤として水稲について試験が行なわれ、次のような実用使用基準が決められた。(処理時期、10アール当たり使用製品量、適用土壌、適用地帯、使用上の注意、の順に記載)

ヒルムシロ：ヒルムシロの発生始～増殖始、3～4Kg、砂壤土～埴土(2cm/日以下)、全域、場合によって再生のみられることがあるの

でその場合は再散布する。

ウキクサ類・藻類：ウキクサ類・アオミドロ・アミミドロの発生始～盛期、2～3Kg、砂壤土～埴土(3cm/日以下)、全域、イチヨウウキゴケには効果が劣る。

ウリカワ：ウリカワの増殖初期、2～3Kg、ウリカワ3葉期までに使用しウリカワの水没する程度の湛水とする。処理時期の遅れた場合には多めの量を使用する。

使用上の注意：土壌条件による影響は少ないが極端な深水で使用すると薬害が生ずるので注意する。散布後は水の出入を完全にとめるようにする。魚貝類に対する危害を防ぐため、本剤が河川養魚池などに飛散流入しないよう特に注意する。また、空袋は焼却するなど被害を及ぼさぬよう適宜の処置をとる。

編集後記

啓蟄……冬眠中の虫が目ざめる……季節となった。

いままで、枯草のかげにかくれていた雑草もいつの間にか、そろりそろりと首をもたげてくる。さて、これからが雑草退治劇の本番となる。すでに、西日本の暖地では、各種作物のまきつけ、定植が始まり、除草剤処理が盛んであるが、東日本の寒地では、雪の中にもれ、雑草の活動はまだまだ先になるであろう。

さて、植調誌も、本号で満4才をすぎることになった。ふりかえてみると、実に長い月日がすぎたようであるが、この間、一貫して編集を担当したためか、マンネリ化しているという声もあるが、何か新鮮な材料をとり入れて、近

代的なレイアウトをしてみたいと思う。

今後も、読者の皆様に親しめるPR誌として大いに勉強してゆきたいので、絶大なご支援をお願いする次第である。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都港区芝西久保桜川町26番地
東話 東京(03)502-4188(代)

昭和46年3月発行

第4巻第12号

編集人 日本植物調節剤研究協会常務理事 吉沢長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都港区芝愛宕町1-3 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)436-3388番